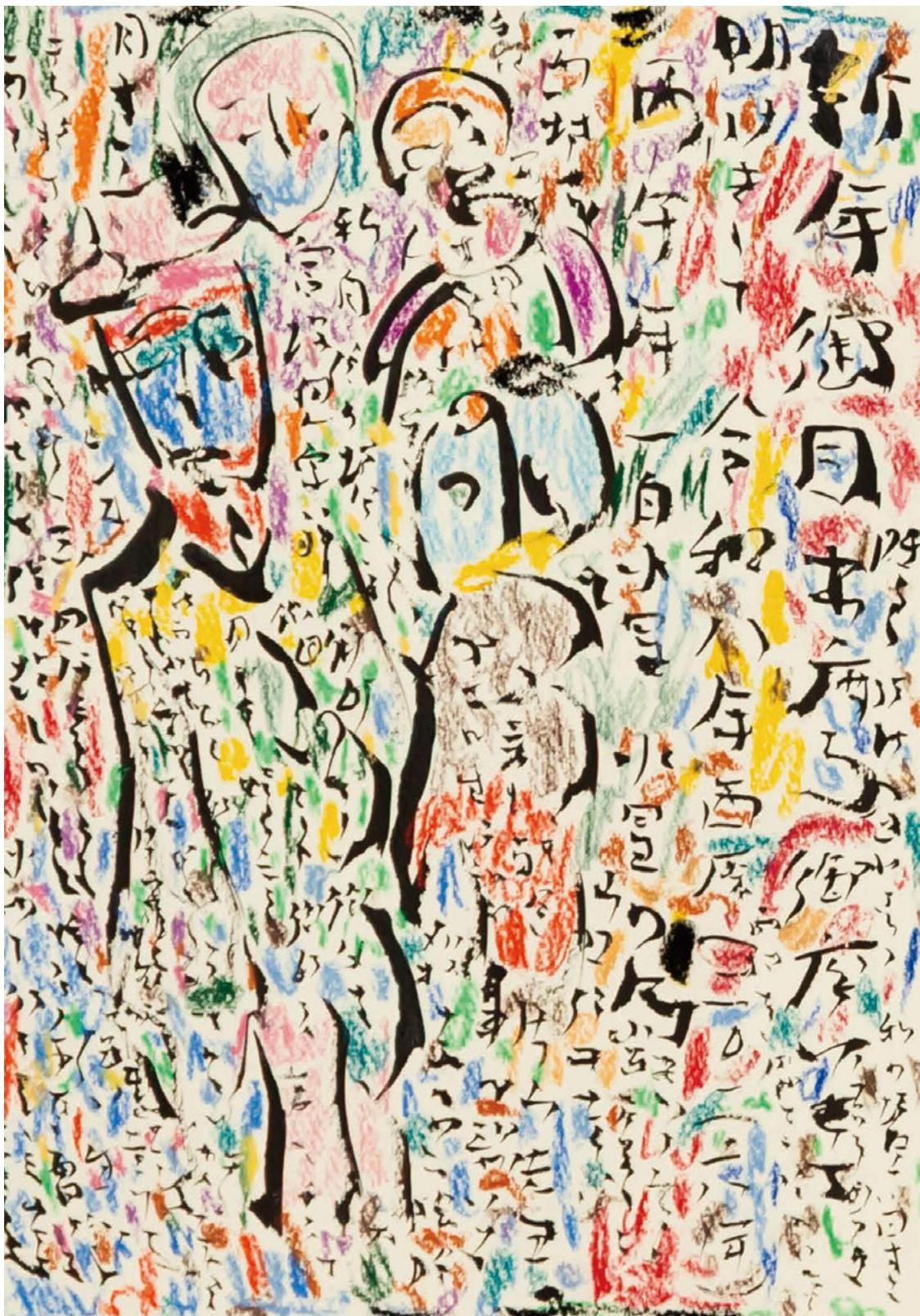


一羊会大より



一羊会ホームページ
へはちらから

発行／社会福祉法人一羊会
事務局／〒六六三一八二四一 西宮市津門大塚町一四七 電話(〇七九八)三一一七六〇 FAX(〇七九八)三一一七六三



あとりえすずかけの富塚純光さんが描いた新年の挨拶の絵です。「新年御目出度う御座います」の書き出しからはじまる富塚さんの空想の物語には、富塚さんがかつて勤めていた会社の上司の方と、怪人が集まって合体した不思議な怪物が登場します。

毎年3月に開催しているあとりえすずかけの展覧会『すずかけの間』が、今年第10回目を迎えます。記念の10回目には富塚純光さんの個展を開催する予定です。皆さんお楽しみに！

新年のご挨拶

理事長
古川 勝



あけましておめでとうございます。

昨年6月に前理事長の後を受け、理事長に就任してから半年が経ちました。まだ大きな成果を実感するには至っておりませんが、法人の事業発展に向けて歩みを止めることなく、一歩一歩着実に進んでいきたいと考えております。

この数年、多くの法人とのつながりの中で様々な知恵をいただき、自身の成長の糧としてまいりました。経営のノウハウについても多くの学ばせていただき、その知識を基盤に具体的なアクションへとつなげることができました。ご交流いただいた皆さまには、改めて深く感謝申し上げます。これまでのご縁を大切にしながら、少しでもお返しできるよう努めてまいります。

昨年は、法人の経営改革に本格的に取り組んだ一年でした。組織体制を含め様々な課題に向き合い、プランを構築することができました。特に、その中心を担った次期リーダーである部長たちを中心に取り組んでくれたことは、彼らの成長にもつながり、大変心強く感じております。

今年は、策定したプランを実践へと移す重要な一年となります。PDCAサイクルを回しながら、数年かけてより完成度の高いものへと育てていきたいと考えています。

ご存じの通り、現在の経済状況は非常に厳しく、福祉業界も例外ではありません。報酬の伸び悩みが続き、すでに2026年度には一部事業で臨時的な基本報酬引き下げ案も示されています。新規事業所への適用に限られているとはいえ、2027年

度の報酬改定では既存事業所にも広がることが予想されます。西宮市においても緊縮の動きが見られ、利用者の生活への影響が徐々に現れるのではないかと危惧しています。

2026年度は第7次マスタープランがスタートする年であり、まさにスタートダッシュが求められます。本プランでは、一羊会の原点に立ち返り、これまで積み重ねてきた支援という財産を振り返り、その強みをさらに発展させていくことが重要であると位置づけています。

2026年度の事業としては、新しいグループホームの建築があります。法人の大きな柱となる事業です。ここ数年、ホーム事業は法人にとって大きな負担となっており、その改善に向けた大きな挑戦もあります。このホームの成功が、今後の事業拡大のカギになるとを考えています。

地域生活の実現には、生活基盤の安定が最優先課題です。今回の計画では、既存の4か所のホームを統合した大規模なホームを建築する予定であり、資金面では大きな負担となります。長期的には事業の経営改善につながる重要な一手となります。

どのような逆境にあっても、一羊会を利用される方々、そして利用者のために働く職員がいる限り、私たちは事業の発展に努め続けなければなりません。午年の力強さにあやかり、皆さんと共に前へと駆けていく年にしたいと願っております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



グループホーム事業（共同生活援助事業）については、過去に就労要件が撤廃されて以降、重度の障害があっても住み慣れた地域の中での生活基盤となり得る事業として、一羊会でも事業展開を行ってきました。住居地ごとの大小はありますが、可能な限り家庭に近い雰囲気で利用者さん個々の生活が実現できる場面となることを目指して取り組んできました。しかし、近年の労働人口の減少や物価高騰、最低賃金の引き上げなど社会全体の情勢が変化していく中、住居地が点在する形でグループホーム事業をこの先も維持していくことが難しい状況になってきました。点在していることで、同じ日に複数カ所で支援体制を確保する必要があるのですが、労働人口の減少に伴い、夜間帯も含めた人員の確保が困難になってきていることが大きな要因です。

その為、一羊会では、グループホーム事業が今後も持続可能な形で運営していくように住居の再編と統合を進めています。ここでのコンセプトは、一つの建物の中で住居（ユニット）を分けることで、利用者さんにとっては小規模な住居を維持し、職員にとってはフォローアップ体制が敷き易く効率的な人員の配置を行うことがあります。

すでに2024年度には、女性ホームの再編と統合を行いました。現在は男性ホームの再編と統合に向けて、新たなグループホームの建築計画を進めています。今回の建築では、すでに障害福祉サービスに特化した建物の設計実績のある設計業者さんに依頼し、既存の一軒家やマンションタイプの建物では整備の難しかった利用者の障害特性に配慮した住環境整備を意識した設計となるよう担当職員が打ち合わせを重ねてきました。設計段階が終わり、これから建築に入っていきます。建物の完成は2026年10月を予定しております。今回の計画を実現させていくことで、持続可能なグループホーム運営の一つの形にしてくことが出来ればと考えております。

最後になりますが、今回の建築にかかる資金の確保について、一羊会後援会からご寄附をいただきましたことに御礼申し上げます。



2013年に建設されたグループホームには「はなまるホーム」と「ホームらんらん」が統合されました

2025年度 実践発表会

12月5日に西宮市民会館大会議室にて2025年度の実践発表会を開催いたしました。ここ数年はオンライン開催でしたが、久しぶりに皆さんを会場にお招きしての開催となり、50名以上の方にご来場いただきました。お越しいただいた皆さま、どうもありがとうございました。今回、4名が発表した内容について掲載させていただきます。是非ご一読ください。

みんなの働くモチベーションって???

すずかけ労働センター
大川 裕紀

今回「みんなの働くモチベーションって?」というテーマで発表させていただきました。

初めに、私自身の法人内の経験を説明させていただき、事業所異動を経験した中で学んだ「働くモチベーションはお金だけではない」という事、そして「その方の趣味嗜好、性格等に合わせた支援が大切である」という考え方を基に、モチベーションを生み出す為に具体的に進めてきた支援の事例を3つ紹介させていただきました。

まず、対人トラブルや作業中の不適切行動が目立ったFさんの事例では「トークンエコノミー法」を導入し、課題をクリアしトークンを達成する事で本人の関心が強い「お菓子などの購入」を報酬とし、支援を進めました。目標設定に関しては、課題となっている「作業への集中」をいきなり目標には据えず、初めはすでにできている事を目標に据え、成功体験を積みながらも、徐々にステップアップしていくよう支援を段階的に進めました。今では、お菓子等の購入を目指し、シールが溜まるよう頑張れています。

次に欠勤過多が課題であったKさんの事例でも「トークンエコノミー法」を導入し、本人の性格も加味し、落ち着いた場で職員とゆっくり話が出来るよう、「作業後に一緒に喫茶店に行く」という事を報酬として設定しました。Kさんの欠勤状況として、過去を振り返っても休み明けの月曜日に欠勤が偏っており、そこに焦点を当て「月曜日に出勤したらコーヒーマークが1つ溜まり、それが5つ溜まれば職員と喫茶店に行ける」という仕組みで支援を進めました。支援の成果は徐々に表れ年間48日だった欠勤数が、今年度はこれまで『0日』と全く休まず出勤する事が出来ています。

最後に、高い作業スキルを持ちながらも感情表現が苦手なSさんの事例では、「サンクスカード」というカードを使用した支援を進めました。本人の拒否感が高まった作業で活用し、作業を終えたタイミングで作業の希望を記載する用紙を渡しています。自分の意思が尊重される環境を設定し、「嫌な作業でも頑張れば評価してもらえる、思いが満たされる」という事を実感できたからか、今ではその作業への拒否は無くなり、反対に意欲的に従事されています。

どの事例においても『モチベーションを持つように支援する』という事と『働く理由や頑張る理由を明確に示す』という事の重要性が挙げられました。今後も支援を行う中で大切にしていきたいと思います。





外国人職員の雇用について ～外国人採用はじめの一歩～

一羊園
岡 伸光

12月5日に開催された実践発表会では、「外国人職員の雇用について～外国人職員採用はじめの一歩～」というテーマで発表させていただきました。人材不足が深刻化する中、外国人職員の採用を検討する事業所は今後さらに増加していくと考えられます。そういった方々に向けて、今回の発表では採用に至るまでの経緯、受け入れ準備、実際の勤務の様子、受け入れ後に直面した課題、そして現在に至るまでといった流れでお話しさせていただきました。

まず、採用にあたって最大の課題となるのが言語の壁です。翻訳ツールの使用感、翻訳サイトを使った翻訳の難しさや、準備にかかる負担を減らしつつ業務を円滑に覚えてもらうためのマニュアル作成時の工夫などを画像による実例も挙げながら、具体的な取り組みを紹介しました。また、職員間で「やさしい日本語」の使用を共有したほか、ふりがながついていて読みやすい啓発書を購入して障がい特性について学ぶ時間を設けたことについて話しました。

さらに、各国の文化的背景や国民性に配慮する必要性についても触れました。異なる価値観を持つ職員が安心して働ける環境を整えるためには、言語支援だけではなく、文化的な理解も欠かせません。こうした視点を持つことで、よりよいコミュニケーションが生まれ、働きやすさに繋がると思います。

受け入れ後に直面した課題としては、障がい特性など専門的な知識を外国人職員に伝える難しさ、資格の取得へのフォロー、業務以外のプライベートな部分のサポートを挙げさせていただきました。

課題もありますが、実際に現場で働く彼らの様子は非常に真面目で、日本語の習得や、日々の業務を覚えるのも早く、何よりも前向きに仕事に取り組む姿勢は、周囲の職員にも良い刺激となっています。

発表の最後には、実際に勤務しているミャンマー出身の職員2名から寄せられたコメント動画を視聴いただきました。それぞれ30秒ほどの短い動画ではありますが、日本語の習熟度や人柄が伝わる内容であり、参加された皆さんにとって外国人職員の姿を具体的にイメージする良い機会となったと思います。

今回の発表を通じて、採用から受け入れまでの取り組みや課題を知っていただくことで、採用を検討する事業所の皆さんにとって役立つ内容となればと思います。また、外国人職員が安心して働ける事業所が増えることにより、福祉業界全体の活性化にもつながると考えています。



より良い職場環境を目指して ～OJT制度の運用と効果～

すずかけ第2作業所
若松 沙和

すずかけ第2作業所では、より質の高い福祉サービスを提供し、職員が生き生きと働く職場環境を目指して「OJT制度」を導入しています。その取り組みの概要と成果についてご紹介いたします。

1. 福祉の現場におけるOJTの役割

OJT (On the Job Training) とは、実際の業務を通じて、先輩職員が後輩に仕事のやり方を伝える実地研修のことです。福祉サービスの質は、職員一人ひとりの知識や態度に大きく左右されます。そのため、実務を離れて学ぶ「OFF-JT (座学研修)」と、現場での「OJT」をバランスよく組み合わせることが、専門職としての成長には不可欠です。

2. 独自の「エルダー制度」によるきめ細かな育成

当事業所では、新人職員に対して「エルダー」と呼ばれる教育担当者を配置しています。単に「背中を見て覚える」のではなく、以下のステップで計画的に育成を進めています。

- ・目標の共有：初回面談で具体的な目標項目を確認し、計画を立てます。
- ・実践と振り返り：日々の業務を共に進めながら、週に1回以上の頻度で定期的な面談（振り返り）を行います。
- ・標準化の工夫：目標項目を細かく設定することで、指導者による教え方のバラつきを防いでいます。

3. 取り組みが生んだ確かな効果

制度の運用を通じて、現場では以下のようなポジティブな変化が見られています。

- ・新人職員の声：「今やるべきことが明確になり、モチベーションを維持できています」「定期的な面談があることで、不安や悩みをすぐに相談できるので安心です」
- ・エルダー（指導者）の声：「教えることで自分自身の知識の再確認になり、根拠を持って仕事を向き合うようになりました」「一対一で対話する機会が増え、後輩の個性を深く理解できるようになりました」

4. 今後の展望

現在は、指導者によって「目標達成の基準」に多少の差があるといった課題も見えています。

今後はエルダー同士の情報共有を強化し、より公平で質の高い育成体制を整えていく予定です。

まとめ

OJTを体系化し、職員間のコミュニケーションを円滑にすることは、職員の意欲向上、そして何より利用者様への支援の質の向上に直結します。私たちはこれからも、学び合い支え合える職場環境づくりに努めてまいります。



意思を支える ～「どこで暮らしたい？」へのアプローチ～

相談支援こんぱす
山口 有香

こんぱすでは、知的障がいのある方が「どのように暮らしたいか」という意思を尊重し、その人らしい生活を実現するための相談支援を行っています。

知的障がいのある方の多くは家族と暮らされているため「親がいなくなったらどうなるのか」と不安を抱えることも少なくないと思います。実際、急な事態で生活の場を変えざるを得ない状況になることがあります、そのような場合でも本人の意思を置き去りにすることのないように気を付けています。

Aさんは両親と暮らし生活介護事業所に通っていましたが、両親が急病で入院されたため、短期入所を利用しながら今後の生活を考えいくことになりました。Aさんは言葉で意思を伝えることは難しいものの、行動や態度で示されるため、初めての短期入所場面では大きな声を出したり（その後、2回目の利用では笑顔で穏やかに過ごされていました）、グループホームの見学では最初からスムーズに動かれるなど、さまざまな行動が見られました。

そのようなAさんの様子を確認しながらAさんの親族、通所事業所職員など関係者でAさんが希望している生活は何かを考え、結果としてグループホームに入居されることが決まりました。通所事業所の職員はAさんがグループホーム入居後も通いなれた事業所を続けられる形になれば、急に自宅で暮らせなくなった状況の中で変更が苦手なAさんが少しでも安心できるのではないかと話していました。

この事例でもあるように、本人の行動や反応を関係者と情報を共有しながら、本人の希望、家族や親族の思い、金銭面の確認など総合的に判断することが重要だと考えています。急な出来事で生活が変わる状況の場合、「仕方ない」「〇〇で暮らすしかない」となってしまう可能性がありますが、本人の気持ちをさまざまな方法で探り続け、意思を尊重した生活が何かを考えていきたいと思います。

そして意思を尊重することは一度の選択で終わるものではなく、継続的に確認していくものになります。Aさんも今のグループホームの生活のままで良いと思っているわけではないかもしれません。こんぱすの相談支援専門員は、これからもどんな状況でも本人の意思を大切にし、寄り添い続けていこうと考えています。



新任職員紹介 一羊園

一羊園では、今年7月よりインドネシアから4名の職員を迎えました。昨年度に採用したミャンマー出身の2名と同様、特定技能枠での採用です。来日当初は夏の気候に問題なく適応していましたが、11月に入ると「寒いです！」と声を上げることが多くなりました。インドネシアの最低気温はおよそ23℃とのことで、日本の冬の寒さは大きな驚きだったようです。現在はさらに寒さが増す12月を迎えてますが、すぐに慣れ、「もう大丈夫です。雪を見るのが楽しみです！」と笑顔で話してくれています。

受け入れにあたっては、事業所として歓迎会の開催やこまめな面談の設定等を行う一方で、日本人職員が自主的に声をかけ、イオンモールでの買い物や大阪観光に誘うなど、自然な交流の場も生まれています。こうした取り組みと職員の温かい気遣いが重なり、良い雰囲気で受け入れが進んでいます。

支援業務においては、言語の壁はあるものの、皆さん前向きに丁寧に取り組んでいます。現在は早出と遅出を学んでいる段階で、これから夜勤の学びも始まります。さらに、介護福祉士資格の取得など長期的な課題も見据え、4名が生き生きと活躍できるよう園全体でフォローしていきます。



ヴィクターさん
と呼んで

Victor Israel Huwae

①名前

ヴィクター イスラエル フワエ

②出身地

インドネシア 東ヌサ・トゥンガラ州

③仕事で頑張りたいこと

それぞれの利用者さんのことをよく知り、個別の対応ができるようになりたい。

Muhamad Raihan Aain Naufal

①名前

ムハンマド ライハン アギン ナウファル

②出身地

インドネシア 西ジャワ州 チマヒ市

③仕事で頑張りたいこと

利用者さんと仲良く笑顔で過ごすこと。利用者さんが幸せそうなら嬉しい。



ライハーンさん
と呼んで



Shela Pingki Nia Vironika

①名前

シエラ ピンキ ニア ウィロニカ

②出身地

インドネシア ジャワ島

③仕事で頑張りたいこと

ルールを守る。職員、利用者さんから信頼されるようになりたい。

Lin Rohinda

①名前

イン ロヒンダ

②出身地

インドネシア インドラマユ

③仕事で頑張りたいこと

利用者さんへの声かけを丁寧にすること。ひとりひとりのことをよく知る事。

インさん
と呼んで



あとりえ すずかけ 新聞

第34便 2026.1
撮影／編集：神田 浩平



あとりえすずかけ秋の市

2025年11月28日、29日の2日間、あとりえすずかけにて開催したイベントにお越しくださった皆さまありがとうございました。29日に開催した秋の市では、オガクロさんの野菜販売と羊水さんの植物販売、そしてあとりえすずかけの雑貨が会場に並び、店主の皆さんと多くのお客様で大賑わいでした。その前日、28日から2日間は元絵画クラブメンバーで、昨年7月に亡くなられた西本尚美さんの作品展示も行いました。西本さんが描いてきた色鮮やかで力強い作品の数々が壁一面に並び、会場は温かい空気に包まれていました。



西本尚美さんの創作活動のキャリアは長く、すずかけ絵画クラブでは多くの作品を制作し、あとりえすずかけの活動で手描きした数々の商品はお客様にも人気でした。女性らしさとユニークさを持ち合わせた人柄で、あとりえすずかけのムードメーカーでした。

西本尚美さんのご冥福を心よりお祈りいたします。



能登半島地震チャリティーティーシャツ 寄附報告とお礼

2025年夏にあとりえすずかけで販売した『チャリT』の売上金のうち、58,000円を、『認定NPO法人ゆめ風基金』に送金しました。ゆめ風基金は被災障害者を支援されている団体で、この寄附金は能登半島地震で被災した障害者福祉事業所の再建にお役立ていただきます。

チャリTをご購入くださった皆さま、ありがとうございました。震災発生から2年が経過しましたが、能登半島地震で被災された方々が、平穏な日々を取り戻す事ができますように、お祈り申し上げます。



すずかけイチバ上甲子園

2025年11月8日、「すずかけイチバ上甲子園」が上甲子園すずかけ作業所で開催されました。秋晴れの中、利用者さんやご家族、地域のお子さんなどたくさんの方にお越しいただきました。このイベントは“地域のみなさんとイベントを作りあげる”をコンセプトにSNSで出店者を募集し、福祉団体やアート作家さんなど7つの団体が参加してくださいました。今津高校ING部の防災ワークショップでは、参加者が避難所に持っていくものを悩みながら選んでいました。

イベントスタッフとして参加された利用者さんもおられ、フード販売やクッキーづくり体験と一緒に盛り上げてくださいました。また今年入職した職員がワークショップの進行役を務めるなど、緊張しながらも活躍している姿が印象に残りました。

そして4月に入職予定の学生さん2名がお手伝いに来てくれました。販売用の食材が売り切れるハプニングがあったものの、利用者さんや先輩職員と一緒に頑張ってくれました。地域の方とも関わる機会になり、楽しんでくれたようです。

足を運んでくださった方、出店者のみなさん、本当にありがとうございました！



すずかけ作業所のクリスマス会

2025年12月24日にすずかけ作業所恒例のクリスマス会が盛大に開催されました。利用者さんと職員で構成されたバンドによる山下達郎の「クリスマス・イブ」の演奏を皮切りに、みんなでクリスマスソングを歌い、最後にはこちらも恒例の「六甲おろし」で締めました。今年もサンタさんがベランダから登場し、皆さんへのクリスマスプレゼントを配布。利用者さんひとりひとりにプレゼントが配られて皆さん嬉しそうに受け取っていました。感激のあまり涙する利用者さんもいましたよ。



追悼

一羊園 井上 治久さん

井上治久さんは、長らくご自宅でご両親と過ごされた後、2021年1月に一羊園へ入所されました。ご家族と日本各地を旅行されていたためか社交的な性格で、人との関わりを楽しむご様子が印象的でした。

入所後もすぐに園の環境に馴染まれ、以前通所されていたすずかけ第2作業所でも、新任職員に最初に関わって下さるのは井上さんだったと伺っています。職員の手をそっとご自身の頬に当ててスキンシップを求められる姿や、お饅頭が大好きで、ご家族が面会に来られた際にはご家族と一緒に園庭で召し上がっていた情景が思い出されます。

7月14日に体調を崩され入院されましたが、そのまま園へお戻りになることはなく、8月2日にご逝去されました。

心よりご冥福をお祈り致します。



助成金の御礼

一般財団法人 高友福祉積善会 様

すずかけ作業所



一般財団法人高友福祉積善会様より、空調ベスト20着購入にあたり福祉事業助成金をいただきました。昨今の気温上昇に伴い、屋外作業において安全に作業できるよう熱中症対策の一環として大切に使わせていただきます。



一羊園



一般財団法人高友福祉積善会様より福祉事業助成金を頂き、玉入れセットと玉あてセットを購入させて頂きました。余暇時間に活用し、利用者の生活の充実を図りたいと思います。

この度は本当にありがとうございました。

法人・事業所御寄付の報告(敬称略・順不同) (2025年7月1日~2025年10月31日)

*法人		*ジョイント	
多田英子	三浦昇	匿名(2件)	2件
*一羊園	村山俊宇	*児童通所支援	
一羊園家族会	一羊会後援会	古川勝(2件)	2件
*すずかけ作業所	4件	*上甲子園すずかけ作業所	
角松生史	1件	山本加津美	1件
*武庫川すずかけ作業所	豆柄和利		
平野弘子(4件)	5件		

いつもご協力・ご支援ありがとうございます!!

2025年度一羊会後援会会費(敬称略・順不同)
(2025年8月1日~2025年12月31日までのご入金分を掲載)

*法人・団体の部	
朝野ケアシステム(株)	
(株)前中地所	
(株)メックテクニカ	
(株)ヤマサ環境エンジニアリング	
すずかけ労働センター保護者会(16口)	5件

*個人の部	
宇野明人	梅谷正子
川越アキミ	岸栄里子
塩谷健介	四方勝
善塔勝一郎	高野重子
光武眞里	森康祐
	大前繁雄
	黒田輝子
	芝重信
	橋本真理
	八木春作
	大目修平
	笹川利彦
	下浦洋子
	福田百合子
	八島満紀子
	20件

2025年度一羊会後援会御寄付(敬称略・順不同)
(2025年8月1日~2025年12月31日までのご入金分を掲載)

*法人・団体の部	
日本基督教団関西学院教会婦人会	
(学)夙川学院神戸教育短期大学宗教部	
日本キリスト教団夙川東教会さくら会	
トータルマナー(株)	日本基督教団西宮教会
日本基督教団西宮教会日曜学校	
日本基督教団西宮教会婦人会	西宮浜産業団地協議会
(宗)法心寺	(税)丸岡&パートナーズ
社会保険労務士法人溝口社会保険労務士事務所	11件
*個人の部	
井上尚子	今西卓司
岸栄里子	木村清一
堺孰	芝重信
高谷知子	田中幸二
八島満紀子	岩本健熙
	久保田晴子
	下浦洋子
	中島厚子
	大目修平
	黒田輝子
	善塔勝一郎
	橋本真理
	17件

■口座名義 一羊会後援会

■銀行 三井住友銀行 西宮支店 普通 3007061

■郵便振替口座 01190-8-66322

■シンカブル(クレジットカード・銀行振込決済サイト) Syncable



※受領証については、払取扱票の振替払込請求書兼受領書をもって後援会の受領証とさせていただきます。

別途受領証が必要な場合はお知らせください。

※現金振込時の手数料について、振込手数料は後援会負担としておりますが、現金でお支払いの場合は別途110円の手数料がかかります。誠に恐縮ではございますが、何卒よろしくお願ひいたします。(ゆうちょ銀行の通帳やカードでのお支払い時には手数料はかかりません)

寄附のご報告

10月17日に一羊会へ150万円を寄附いたしました。

会費や寄附金、カレンダー販売や募金など、みなさまからの多大なるご支援に心より御礼申し上げます。
今後ともよろしくお願ひいたします。